

Back Number

本論文は

世界経済評論 2022 年11/12月号

(2022 年 11 月発行)

掲載の記事です

2022年11月15日発行(発行(登録)発行)
1950年発行 - 毎月720円

世界経済を読み解く国際戦略の羅針盤

世界経済評論 11・12月号
2022 Vol.66 No.6

World Economic Review



世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン書店

日本の貿易変動と 非関税障壁

学習院大学国際社会科学部教授 乾友彦



[著者] 井尻直彦 (いじり なおひこ)

日本大学経済学部教授

[発行] 文眞堂, 2022年4月刊

[判型] A5判, 240ページ

[定価] 本体3,800円+税

本書は、グローバルバリューチェーン (GVCs) の拡大、深化が進行するなかで、非関税障壁が日本の貿易の変動に与えた影響を実証的に分析した学術書である。分析に用いたモデルは国の間の貿易量の考察、分析する際に最も重要なグラビティ・モデルである。本書の分析では貿易障壁を関税障壁と非関税障壁に分け、加えて財分類間の代替の弾力性の違いを考慮に入れている。その際、国際規格の有無により財の代替の弾力性が異なると想定し、貿易財を管理市場取引財、国際規格のある差別化財、国際規格のない差別化財の3区分に分類している。また、国際規格のある財は非関税障壁が小さくなるものと想定している。

本書では、いくつかの興味深い実証分析の結果を得ている。(1) 日本は中間財・汎用品における前方 GVCs 参加度を上昇させる一方で、消費財の後方 GVCs を下落させている。(2) 輸入における国レベルの非関税障壁の大きさを示すと考えられる国境効果を日本の輸入について検証したところ、国境効果、すなわち非関税障壁が低下している結果が得られた。(3) 日本の国内規格である JIS は国際規格と整合的ではなく、かつ強制規格であるため、日本市場の非関税障壁となっていることが推計結果から判明した。(4) リーン生産方式と関わる中間財、特殊財、非耐久消費財や、輸出先との輸送距離が遠い場合などにおいて、日本の航空化率が高いことがわかった。

本書の分析結果は、重要な政策インプリケーションを持つ。まず、既存の貿易相手国に加えて潜在的な貿易相手国との間においても非関税障壁を削減し、より多くの日本企業が GVCs へ参加することによって貿易が更に拡大する余地が残されていることが明確となった。次に、日本の JIS の約半分が未だに国際規格とは整合的ではなく、対応する国際規格が発行されていないことが非関税障壁となり、日本企業の GVCs への参加を阻害しているものと考えられる。そこで筆者が指摘するように、ISO などによる国際規格の発行を促進させることが重要である。

本書の最大の貢献は、今までほとんど分析されてこなかった国内規格と国際規格の整合性が貿易に与える影響を、全ての財レベルで整理されたデータを使用して緻密な実証研究を行った点である。本書は国内規格や国際規格が経済活動に与える影響に関心のある政策担当者や研究者にとって必読の書である。(いぬい ともひこ)